

- *「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます。」(ヨハネ13:37)ペテロは「イエスが行くところ」についていきたいと願った。しかし、それは十字架の死と復活と昇天のことであった。「あなたのためならいのちも捨てます」といった時の気持ちに嘘はなかったが、そのときは、本当の自分の弱さ、罪深さをよく認識していなかったのである。いのちを捨てるのはペテロではなく、イエスがペテロのためにいのちを捨てることになる。
- *イエスはそのようなペテロの心の内をすべてご存知であり、これから起こることも見据えておられた。イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」(13:38) この預言が現実になるところも4つの福音書全部が記している。ルカでは、「しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。そして、外に出て行って、激しく泣いた。(ルカ22:60~62)ペテロは3回も主を否定してしまった。もし肯定すれば自分も捕まってしまうかもしれない、袋だたきに会うかもしれない。人間ならだれでも持つ「恐れ」からである。
- *この時のイエスのまなざしは、非難、叱責ではなく、憐れみと赦しのまなざしであったと思う。ペテロは自分を悔いるとともに、イエスが全知の神、主であることをはっきりと認めたことであろう。その後、彼はイエスの十字架を見、復活のイエスに出会って、イエスの福音を伝えるために命を懸けて出ていくことになった。
- *ペテロは完全に変えられた。それは、復活されたイエス・キリストに出会って、いのちは地上のいのちだけではなく、永遠のいのちの道があることを知ったからである。私たちも復活して生きておられるイエスに出会うことによって霊的に生まれ変わるのである。そうすれば地上の恐れは無くなる。
- *しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。(IIコリント12:9) ペテロは3回イエスを否むという大きな罪を犯した。このような弱さ、愚かさ、醜さは私たちも皆持っている。「弱さを誇る」とは、弱さを自覚して謙遜になり、その弱さは主が覆ってくださる、主が赦してくださることを信じることである。あくまで誇るのは「主」である。これが真の悔い改めである。